

【第100回生涯教育講座】

変形性膝関節症の病態と治療

うち お ゆう じ
内 尾 祐 司

キーワード：変形性膝関節症，ロコモティブシンドローム

要 旨

変形性膝関節症は患者個人の生活に影響を与えるばかりか，社会的影響も大きく，その病態解明と治療法の確立は超高齢社会日本の運動器における喫緊の課題の一つといえる。関節軟骨の生物学的特性は治療を困難にし，膝関節の構造特性やアライメントや動作，軟骨以外の関節構成体の変性変化などが病態を修飾し複雑化させる。本症の治療目的は疼痛の軽減と関節機能の維持または改善によって患者の日常生活動作の拡大と生活の質の向上を図ることにある。保存的療法は本症における治療の基本であって，日常生活指導，運動療法，装具療法や薬物療法を適切に選択しなければならない。一方，手術的療法には関節鏡視下手術，高位脛骨骨切り術および人工関節置換術などがあるが，これらも各々有効性の限界や課題をもつ。本症に対しては医学的根拠に基づいて個々の患者の病態と生活に即した治療法が求められる。

はじめに

老年人口が23%に達し超高齢社会が現実のものとなっている日本で加齢を基盤とする変性疾患が増加することは容易に想像できる。なかでも変形性膝関節症（膝OA）の患者数は有症状者で約800万人，X線学的変化（図1）をもつ人は2,500万人に達すると推計され¹⁾，今後その数はさらに増えると予測される。また，本症は疼痛や歩行障害を生じ，生活機能が低下し，介護が必要な状態

になってしまう，あるいはそのようになるリスクの高い状態，すなわちロコモティブシンドローム

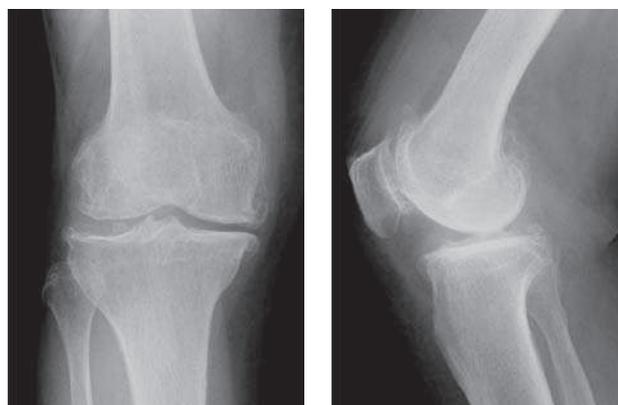


図1 変形性膝関節症のX線像
関節裂隙の狭小化、骨硬化、骨棘の形成

Yuji UCHIO

島根大学医学部整形外科教室

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1